

組合活動の 創造X想像

レポートの紹介

Link surveyで組合員の幸せを多面的に考えよう

Point 1

イベント内容の要約

Link survey（共同調査）の調査結果を元に、今後の組合のあり方を考えてもらうことを主旨としています。イベントの内容は以下の通りです。

- ①j.union Labの概要、ホーム&バザールの説明：浅野
- ②原 恵子先生（筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター 准教授）
中村准子先生（筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター 研究員）の講和
- ③Link survey結果説明：渡辺
- ④ブレイクアウトセッション：調査結果の感想共有など
- ⑤活動事例の説明：浅野
- ⑥ブレイクアウトセッション：活動事例の感想、自組織での展開案の共有など
- ⑦総括：浅野&依藤

Point 2

今回のイベント企画の背景や目的は？

j.union Labが企画したLink surveyは組織横断的にアンケートを実施する企画です。このLink surveyは、「組合員の幸せ」を支援する労働組合が知恵を共有し、議論することで組織の現在地を知り、方向性とその手段を創造することを目的としています。

今回のイベントではLink surveyの結果(11労組、1020人)を共有し、以下のことを目的としました。

- ①お客様にとっての目的：調査結果を読み解くことで組合員の幸せへのアプローチの端緒となること
- ②①を実現するための当社Link surveyの企画にご理解・賛同いただき、近いうちに利活用していただくこと
- ③j.union Labと、Labが企画するLink surveyやその他活動の両者の認知度を高めること

今回のイベントで参加者の みなさんが得たことは？ (参加者の反応や、意見、創発など)

共通尺度に基づいた共同調査の結果を共有することで、各労組の背景にある組合活動事例や、労組独自の事情などが読み取れる。この対話自体の有効性を感じていただきました。

◆組合活動指標の定着に向けて

ホーム&バザールについては認知がまだまだ低いく、次のようなマクロ的・ミクロ的意味づけができる汎用性の高いコンセプトだと改めて感じました。

<マクロの意味付け>ホーム＝これまでの制度構築の活動、バザール＝未来に向けた挑戦を促す活動
<ミクロ的な意味付け>組合員の働き方におけるホーム＝心理的居場所感、バザール＝キャリア自律に向けた学びなおしやスキルアップ

◆現在地を知ることが大切

共通設問による共同調査が、各労組にとっての現在地把握になるとの認識を持ってもらえました。そのことが、各組織のビジョン創造に活かされます。参加者の具体的な声をご紹介します。

- ・ surveyの結果自体は、労組の活動の次の打ち手を考えやすい（アイデアのヒントになる）
- ・ ホームとバザールという観点が新しい切り口なので、一つの指標になりそう
- ・ 会社に対しての誇りといったことはホーム・バザール両方の観点から見られると思った
- ・ 組合を変化させたいのでキャッチフレーズを付けるのは良さそう

今後の労働組合の役割として 強化すべき活動内容は？ また新たに浮き彫りになった課題は？

◆調査結果による組合活動再設計

学術的な裏付けをもって組合活動を再構築することが進んでいません。現状を数値比較できることは良いが、活用方法に苦慮しそうです。

◆各テーマ別の取り組みの強化

ターゲット別キャリア自律、会議体の連動による階層別の労使関係強化、職場委員の主体的な取り組みによる職場自治活動、組合員の組合活動への参加を促す組合員教育などの強化

◆人材不足

組合活動を活性化するためにインフルエンサーになり得る役員をリクルートしたいが、そもそもそのような対象者・候補者の数が少ない。職場や分会の数が多く、目が行き届かない。職場委員の組合活動への動機付けができない、職場委員が若すぎるために職場リーダーのレベルに達するまでに時間がかかる、など